

暮らしの学び舎Salmatt企画 暮らしから家庭科を問い直す学びの場

家庭科で育つ子どもと私のWell-being  
オリエンテーション 新生家庭科に向けて

2026 0425

鈴木明子

[suzuaki@hiroshima-u.ac.jp](mailto:suzuaki@hiroshima-u.ac.jp)

私達を取り巻く社会や生活の変化への対応も受け入れながら、自立した生活者を育むことを目的として、それぞれのウェルビーイング実現のために何ができるのかを追求していきたいと思います。

そのために、私たちが**自分の生活と向き合い、自分らしい生活を創造するための家政教育研究**と、それを支える小・中・高等学校の**家庭科指導に携わる先生方の支援**を行います。

# 事業内容

- ① 複雑な生活課題の追究のための情報共有（オンラインによる専門家の講演等）
- ② 家庭科の独自性を発揮できるカリキュラムと授業づくり, 教材の共同開発

教育実践者であり研究者である私たち自身が、生活者として主体的・積極的に他者や生活事象と関わり、多様な価値に触れて自分自身の生活のあり様を問うことが必要です。

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 家庭科の授業づくりのために

## 家庭科の課題

- 生活の科学的理解や, 生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成に課題

(黒光ら, 2022)

- 慢性的課題 (指導の視点から)

時間数少

教科観の不明瞭さ (つくらせるのみ, カッコ埋めのみ)

生活者教育の必要性への視点弱い

# 家庭科の授業づくりのために

## 課題へのアプローチ



まず



楽しく!

- 1 教科観, 指導観をみつめる
- 2 家庭科の内容, 生活の要素と構造および生活をとらえる視点を整理してみる
- 3 生徒の学びの実態をみつめ, 主体的で実践的な学習方法の工夫を考える

# 家庭科の教科観, 指導観の問い直しのために

- ① 家庭科の背景学問 (家政学) への認識を深める
- ② 生活経験を増やし, 生活を多面的に観て課題をとらえ, 生活者としての意識を高める
- ③ 家庭科の学習内容を生活課題と関連付け, 構造化・体系化できる
- ④ 問題解決的な学習方法, 実践的・体験的な学習方法を用いる意図を考える

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 生活者として目指す資質・能力

- ① 科学の知を総合して生活事象を解釈する力  
及び生活技能取得
- ② 生活技能習得と日常生活実践に対する価値・態度形成
- ③ 他者との相互作用による自己の生活の創発  
等の資質・能力の向上

家政学, 家政教育, 家庭科教育における研究  
の蓄積を背景に・・・

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 家政学

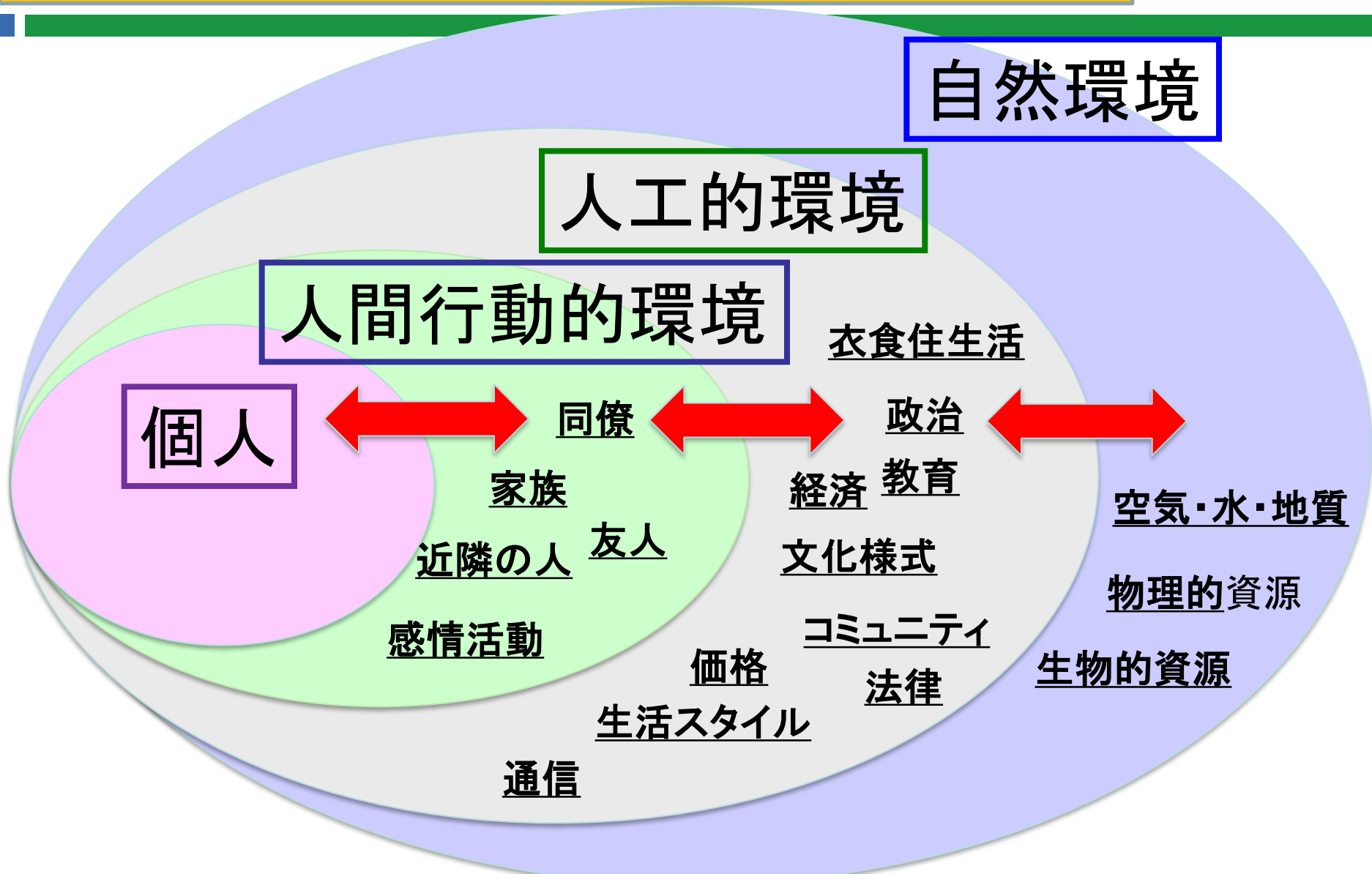
家政学は、人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から研究し、生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。

人の暮らしや生き方は、社会を構成する最も基盤となる部分である。すべての人が精神的な充足感のある質の高い生活を維持し、生き甲斐を持って人生を全うするための方策を、生活者の視点に立って考察し提案する。

(日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分野

参照基準検討分科会,2013)

# 家政学における生活のとらえ方



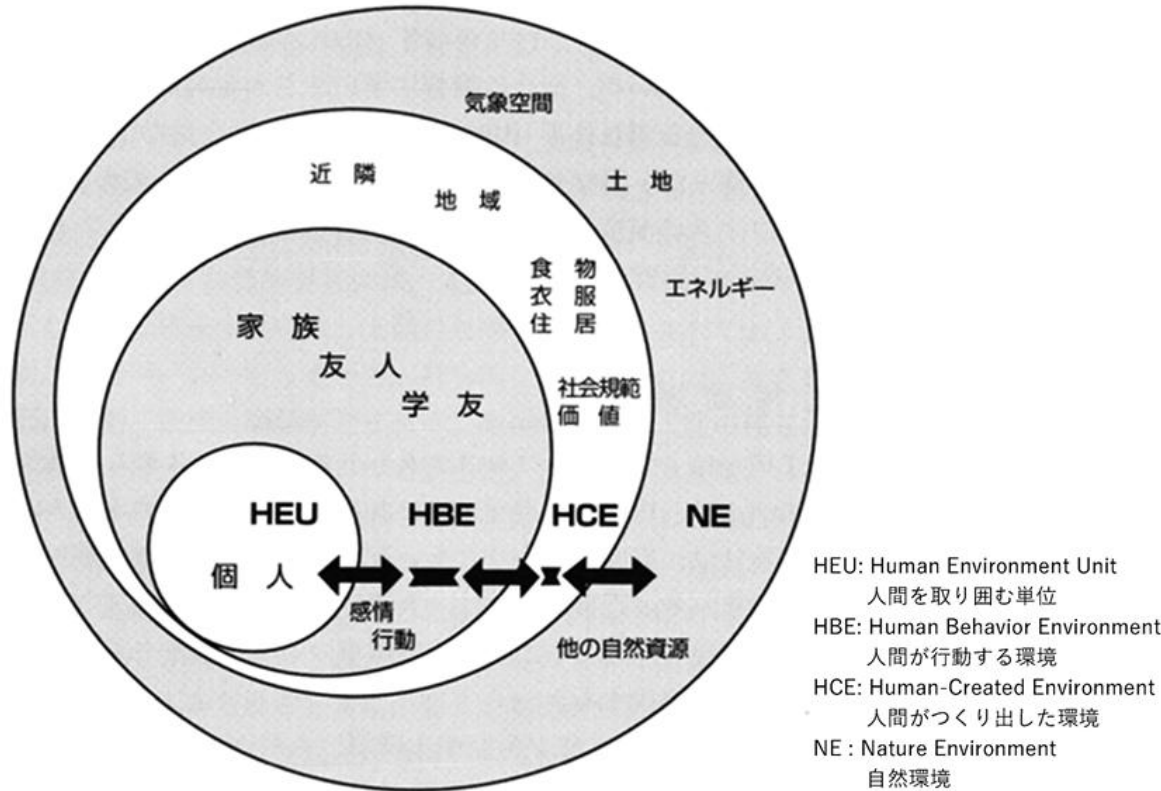
# 家政学における生活のとらえ方

- 生活を構成する要素は多種多様であるが、家政学ではそれらの集合体としてではなく、それら要素の相互作用によって変化する総体として生活を捉える。
- すなわち、個人から家族・友人などの人間的環境、衣食住生活などの社会的環境、エネルギーなどの自然的環境が相互に作用し合って生活は成り立っていると考ええる。
- そのため、個人がどのように周囲の環境に関わるかによって生活の総体は変化する。

# 家政学における持続可能性の概念

## 家政学における人間と環境の捉え方

「個人」や「家族」が、家庭生活を中心とした生活における諸問題を解決して、よりよい生活を実現するためには、それらを取り巻く多様で広範な環境を調整することが必要である。



出典：(社) 日本家政学会 家政学原論部会 翻訳・監修『家政学 未来への挑戦—全米スコッツデイル会議におけるホーム・エコノミストの選択—』建帛社, 2002, 206 (本図は, Bubolz 他が1979年に発表した論文に基づく: Bubolz, M. M., Eicher, J. B., & Sontag, M. S. "The human ecosystem: A model", *Journal of Home Economics*, 1979, Vol. 71, No. 1, 28-31)

出典：, 日本家政学会家政学SDGsポジション・ステートメント検討委員会 (2023.2.20), p.8  
Bubolz 他が 1979 年に発表した図を改変

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 家政教育と家庭科教育

家政教育とは、教育のあらゆる場において、家政学にかかわる領域をめぐる人間の調和的発達をはかり、人間の幸福・健康に基づき、人間社会の福祉・発展に寄与するための教育

教育のあらゆる場

・・・家庭, 学校, 社会/意図的・無意図的

家庭科教育は、学校教育の教育課程を構成する一教科「家庭科」(教科名:家庭)で展開される教育

背景学問は家政学

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. **学習指導要領改訂に係る情報**
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 文科省教育課程部会家庭ワーキンググループの情報

<会議資料について>

教育課程部会 家庭ワーキンググループ: 文  
部科学省

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/  
chukyo3/114/index.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/114/index.html)

# 家庭ワーキンググループ開催状況

- 教育課程企画特別部会 論点整理(案)
- 令和7年9月19日(金)
- **第1回【開催日時:令和7年10月2日(木)】**
- 第2回【開催日時:令和7年10月29日(水)】
- 第3回【開催日時:令和7年12月25日(木)】
- 第4回【開催日時:令和8年1月28日(水)】
- 第5回【開催日時:令和8年3月10日(火)】
- **第6回【開催日時:令和8年4月17日(金)】**

以下、**第1回と第6回(最新)**から資料抜粋

# 第1回（令和7年10月2日）資料より

令和7年10月2日  
教育課程部会  
家庭ワーキンググループ  
資料 6

## 家庭WGに関する 現状・課題と検討事項

## 教科「家庭」に関する現状と検討課題

### 1. 現状と成果

- 家庭科では、自ら課題を設定し、解決に向けて取り組む問題解決的な学習を通じて「生活をよりよくしようと工夫する」資質・能力の育成を図ることとしている。
- 今次学習指導要領では、小・中・高等学校の内容の系統性の明確化を図るとともに、問題解決的な学習について、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視する方向で整理を行った。
- 今次学習指導要領の改訂により、例えば、身近な生活の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等については、日常生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定することに成果も見られる。  
※資料7 p16-18参照

### 2. 検討課題

#### (1) 小・中・高等学校における目標・内容・方法の体系的な整理に関する課題

- 今次学習指導要領の改訂で整理された小・中・高等学校の系統性を引き継ぎつつ、児童生徒の発達段階や学習対象（空間軸・時間軸の観点。資料7 p13-15参照。）を踏まえ、より一層実践的・体験的な活動を通じた目標・内容・方法の体系的な整理をする必要がある。
- 学習指導要領で示された各項目については、習得した「知識及び技能」（指導事項アに該当）を活用して「思考力、判断力、表現力等」（指導事項イに該当）を育成することにより、課題を解決する力を養うこととしているが、教師主体の課題設定がされているなどの課題がある。

- (例) ・ 中学校においては、特に「生活の課題と実践」A(4)、B(7)、C(3)において、教師主体の課題設定がされていることが多い。
- ・ 高等学校においては、「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」が内容の1つとして位置付けられているにも関わらず、必ずしも十分な指導が行われていない実態がある。

※資料7 p13-15,p19-20参照

## 教科「家庭」に関する現状と検討課題

### (2) 少子高齢化や社会のDX化に伴う家庭生活の変化に関する課題

- 少子高齢化や電子マネーの普及など、社会の変化に伴い、家庭生活も変化しているため、児童生徒の生活の実態、発達段階に応じた内容や、家庭科として本質的に重要な内容等について改めて整理していく必要がある。

なお、社会の変化に対応した学習については、他教科等も含め、学校教育全体で取り組めるようにしていく必要がある。

- 例えば、消費者教育、金融経済教育におけるライフステージに応じた指標については、学習指導要領との整合性を持続的に図っていく必要がある。
- 一方で、利便性を優先した生活の普及により失われつつある家庭・地域の生活文化の継承も念頭においた教育内容のあり方を検討する必要がある。

### (3) 高等学校家庭科における科目の整理に関する課題

- 「家庭基礎」、「家庭総合」の中から選択必修となっているが、
  - ・他教科等との兼ね合いや
  - ・各学校の特色を生かした科目編成、
  - ・また大学入試への対応

など、様々な背景がある一方で、家庭科に期待される役割が高まっている中で、実態は「家庭基礎」に履修が偏り、最低限の学習に留まっている。

〔 成年年齢引き下げ等の対応により履修学年を設定することにより、内容ではなく単位数を優先して教育課程に位置付けている実態が散見される。 〕

- 本来、高等学校家庭科で学習すべき内容が十分に行われていない実態がある。

〔 小・中学校の内容を重複した指導、家庭基礎で、必ず実施するとなっていない実習の実施など 〕

※資料7 p21,22参照

### (4) デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 実践的・体験的な活動を通して目指す資質・能力を育成するために、ICTをより有効に活用する必要がある。

### (5) 家庭科の指導上の環境整備に関する課題

- 家庭科の専門性が十分でない免許外教員が指導している割合が高い。特に、中学校技術・家庭科（家庭分野）では、教科別の免許外教科担任の許可件数全体のうち、約29%を占めている。（令和5年度調査）

※資料7 p23,24参照

## ワーキンググループにおける検討事項・論点

### 1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討の方向性

#### (1) 家庭科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 「学びに向かう力、人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の見直し
- 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選
- 家庭科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい表現への見直し

#### (2) 家庭科の指導と評価の改善・充実のあり方

- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策の具体化
- 資質・能力の育成のために効果的かつ過度な負担が生じにくい家庭科の評価への見直し

#### (3) 誰一人取り残さず資質・能力を育成する柔軟な教育課程のあり方

- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目の柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に考えられる教育課程・学習指導の工夫の具体化
- 教育課程の柔軟化に伴って生じうる課題とそれを防ぐための運用方策の検討

### 2. 家庭科に関する課題を踏まえた固有の検討の方向性

#### (1) 小・中・高等学校における目標・内容・方法の体系的な整理

- 児童生徒の生活の実態及び発達段階、小・中・高等学校の学習対象、実践的・体験的な活動の必要性を踏まえた目標・内容・方法の体系的な整理

#### (2) 社会変化への対応と生活文化の継承の両立を踏まえた内容等のあり方

- 社会のDX化や生活環境の変化への対応と生活文化の継承の必要性等を踏まえた衣食住の内容等の改善充実
- 少子高齢化や消費者教育（金融経済教育を含む）の動向を踏まえた内容等の見直し

#### (3) 高等学校家庭科における科目や指導のあり方

- 「家庭基礎」「家庭総合」について、家庭科に期待される役割が高まっている中で、実態は「家庭基礎」に履修が偏り、最低限の学習に留まっているという課題や高等学校における教育課程の柔軟化を踏まえた科目の整理
- 小・中学校との連続性を踏まえた高等学校「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の指導のあり方の整理

 **ワーキンググループにおける検討事項・論点****(4) デジタル学習基盤の活用**

- 実践的・体験的な活動を充実させるための活用方法の具体化

**(5) 上記(1)～(4)を実現する上での環境整備に関する課題**

- 中学校技術・家庭科が「情報・技術科(仮称)」と家庭科に分かれることを踏まえた、小・中・高等学校における指導の充実に必要な質的・量的な環境の整備や、教育委員会における指導体制の整備のあり方の見直し

**(6) その他**

議題  
(3)

## 系統性・体系性の整理について

## 【参考】家庭科の目標等について <現行学習指導要領>

目標・柱書		青字：学校段階間の相違点	
小学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、 <b>生活をよりよくしようと工夫する資質・能力</b> を次のとおり育成することを目指す。		
中学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、 <b>よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力</b> を次のとおり育成することを目指す。		
高校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力</b> を次のとおり育成することを目指す。		
家庭基礎	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力</b> を次のとおり育成することを目指す。		
家庭総合	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、 <b>よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力</b> を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、 <b>日常生活</b> に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	<b>日常生活</b> の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
中学校	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、 <b>生活の自立</b> に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	<b>家族・家庭や地域における生活</b> の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、 <b>これからの生活を展望して</b> 課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
高校	<b>人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え</b> 、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、 <b>生活を主体的に営むために</b> 必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	<b>家庭や地域及び社会における生活</b> の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを <b>根拠に基づいて</b> 論理的に表現するなど、 <b>生涯を見通して生活の課題</b> を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
家庭基礎	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な <b>基礎的な</b> 理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
家庭総合	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な <b>科学的な</b> 理解を図るとともに、それらに係る技能を <b>体験的・総合的に</b> 身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを <b>科学的な根拠に基づいて</b> 論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、 <b>生活文化を継承し</b> 、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

### 「見方・考え方」

 小・中・  
高等学校

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること

## 小・中・高等学校の家庭科の目標等について <改善案>

注：現行からの変更。黄色ハイライト：第5回WGを踏まえた修正、新たな提示事項。

目標・柱書	
小学校	自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
中学校	家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	家族・家庭、地域及び社会における生活を <b>支え</b> よりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	家族・家庭、地域及び社会における生活を <b>支え、他者と協働しながら</b> よりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	・家庭生活を大切にすることを育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 ・自分や家族・家庭の生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広く深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	・家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広く深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広く深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭基礎	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠に基づく基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広く深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭総合	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠を踏まえた総合的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活を俯瞰しながら問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯やその先を見通して生活の課題を解決する力を養う。	・家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 ・家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広く深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

### 新しい「見方・考え方」

小・中・高等学校 自分や家族の生活の営み（当該教科で扱う事象や対象）を、地域や社会との関わりの中で、持続的なものとする視点から多角的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、主体的によりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと

## 小・中・高等学校を通じた系統性・体系的の整理のイメージ（案）

補足イメージ2

※ハイライトは第5回WGからの修正箇所

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭と生涯 (仮称)	(1)自分の成長と家族・家庭	(1)自分の成長と家族・家庭・地域	(1)生涯発達と社会との関わり	(1)生涯発達と社会との関わり
		(2)幼児の生活と保育	(2)子供の生活と保育・子育て	(2)子供の生活と保育・子育て
	(2)家族や地域の人々との関わり	(3)家族や地域の人々との協働	(3)高齢者の生活と福祉 (4)共生社会の一員としての自分	(3)高齢者の生活と福祉 (4)共生社会の一員としての自分 (5)地域福祉への参画
	(3)生活の課題と実践	(4)生活の課題と実践	(5)生活の課題と実践【個人・協働】	(6)生活の課題と実践【個人・協働】
B 生活の経営と消費生活 (仮称)	(1)家庭生活と仕事	(1)家庭生活と生活資源マネジメント	(1)生涯の生活設計	(1)生涯の生活設計
	(2)家庭と消費生活・環境	(2)家庭・地域の消費生活・環境	(2)持続可能な消費生活・環境	(2)持続可能な消費生活・環境 (3)生活リスク管理と社会保障
		(3)生活の課題と実践	(3)生活の課題と実践【個人・協働】	(4)生活の課題と実践【個人・協働】
C 食生活 (仮称)	(1)食事の役割	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴	(1)ライフステージに応じた食生活	(1)ライフステージに応じた食生活
	(3)栄養を考えた食事	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事		(2)調理実験
	(2)調理の基礎	(3)日常食の調理と地域の食文化		
		(4)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
D 衣生活 (仮称)	(1)衣服の着用と手入れ	(1)衣服の選択と手入れ	(1)ライフステージに応じた衣生活	(1)ライフステージに応じた衣生活
	(2)生活に役立つ布を用いた製作	(2)生活を豊かにする布を用いた製作		(2)被服製作
		(3)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
E 住生活 (仮称)	(1)室内の整え方	(1)住まいの整え方	(1)ライフステージに応じた住生活	(1)ライフステージに応じた住生活
		(2)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(2)住まいの計画 (3)生活の課題と実践【個人・協働】
F 生活実践 (仮称)				(1)総合生活実践

・赤字：現行学習指導要領から変更・追加する項目（名称はいずれも仮称）

・【個人・協働】…個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）



## 小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

※ハイライトは第5回WGからの修正等箇所

### 1. 現状等

- 現行の学習指導要領では、**小・中・高等学校の内容の系統性について明確化**を図るとともに、**問題解決的な学習について、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視**する方向で整理を行っている。
- この改訂により、第1回WGでも報告したとおり、身近な生活の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等については、**日常生活の中から課題を見だし、解決すべき課題を設定することに成果**も見られる。
- また、第2回WGにおいて、少子高齢化や電子マネーの普及など、**社会の変化に伴い、家庭生活も変化**しているため、児童生徒の生活の実態、発達段階に応じた内容や、**家庭科として本質に重要な内容等について改めて整理**していく必要があることや、**利便性を優先した生活の普及により失われつつある家庭・地域の生活文化の継承**も念頭においた教育内容等の在り方について、検討する必要がある旨を論点としたところである。
- 更に、論点整理では、中学校の技術・家庭科が「情報・技術科（仮称）」と「家庭科」に分かれることが示されており、また、高等学校の「家庭基礎」「家庭総合」を再整理したことを踏まえて、**小・中・高等学校の内容の系統性・体系性を整理**することが必要となっている。

### 2. これまでのWGでの議論

- これまでのWGでの議論において、目標や高次の資質・能力等における**小・中・高等学校の内容の系統性について明確化**を図るため、次のとおり議論が行われた。
  - ✓ **各領域の系統性を高める方向で領域を5領域に見直し**
  - ✓ **空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり**を明示

(参考)

#### (1) 新しい領域

- A 家族・家庭生活（仮称）
- B 生活経営・消費生活（仮称）
- C 食生活（仮称）
- D 衣生活（仮称）
- E 住生活（仮称）

#### (2) 空間軸・時間軸

- ①空間軸の視点：小学校…自分と家族・家庭  
中学校…家族・家庭や地域  
高等学校…家族・家庭、地域及び社会
- ②時間軸の視点：小学校…現在及びこれまでの生活  
中学校…これからの生活を展望した現在の生活  
高等学校…生涯を見通した生活

※ 各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。

# 第4回【開催日時：令和8年1月28日】参照



## 家庭科の資質・能力の育成に関する論点

※前回WGから再掲。追記箇所のみハイライト

### 1. 家庭科の領域に関する整理 【補足イメージ1：5ページ】

- 現状の課題等を踏まえつつ、**家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう**、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方について、**各領域の系統性を高める方向**で（1）及び（2）のように見直してはどうか。

#### （1）新たな領域構成の考え方

- ・ 家庭科全体の系統性をより一層高めるため、以下の①、②に分類した上で、領域の構成を見直してはどうか。

##### ①生活の基盤に関する領域

- ・ 生活を営む主体となる「人」に関する指導領域  
→「**家族・家庭生活（仮称）**」
- ・ 生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域  
→「**生活経営・消費生活（仮称）**」（※）

※ 同領域では、生涯の生活設計と消費生活を併せて実施。また、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域に含まれるが、社会的関心が高く、現行の学習指導要領でも領域名として明記されていることから、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記。なお、「環境」については、領域横断的な事項であるため、同領域を中心として、他領域とも関連付けることし領域名には明記しないこととする。

また、名称の「生活経営」については、日本家庭科教育学会及び日本家政学会において、家庭経営や生活マネジメントを示すものとして広く使用されている。

##### ②生活を構成する要素に関する領域

- ・ 生活を形づくる重要要素である「衣食住」に関する指導領域  
→「**食生活（仮称）**」、「**衣生活（仮称）**」、「**住生活（仮称）**」

#### （2）領域の配列の考え方

- ・ 「①生活の基盤に関する領域」の2領域の後に、「②生活を構成する要素に関する領域」の3領域としてはどうか。
- ・ 「①生活の基盤に関する領域」の中では、生活の主体となる「人」に関する指導領域である「家族・家庭生活（仮称）」を先に明記してはどうか。
- ・ 「②生活を構成する要素に関する領域」の中では、従前の順序性や食育の重要性の高まり等も踏まえ、食、衣、住の順としてはどうか。

### 2. 目標の整理 【補足イメージ2：6ページ】

- 現状等を踏まえつつ、**以下の方向で整理**することとしてはどうか。
  - ・ 現行の学習指導要領における内容の系統性の明確化については一定の成果が上がっていることを踏まえ、目標においても、小・中・高等学校の系統性の**明確化を図るという方向性は引き続き**方向で検討してはどうか。
  - ・ その際、**空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり**を明示することとしてはどうか。
  - ・ また、社会が複雑化・多様化する中で、実践を多角的に評価・改善することにより、**生活をよりよくするための適切な判断をする力について育成**する方向で検討してはどうか
  - ・ 「**学びに向かう力・人間性等**」については、①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度と②当該教科等の学習で育みたい情意・感性の構成で見直すこととしてはどうか。

#### <参考>

空間軸の視点：小学校は、自分と家族・家庭、中学校は、家族・家庭や地域、高校は、家族・家庭、地域及び社会

時間軸の視点：小学校は、現在及びこれまでの生活、中学校は、これからの生活を展望した現在の生活、高校は、生涯を見通した生活

※ 各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。

# 第4回【開催日時：令和8年1月28日】参照 広島大学

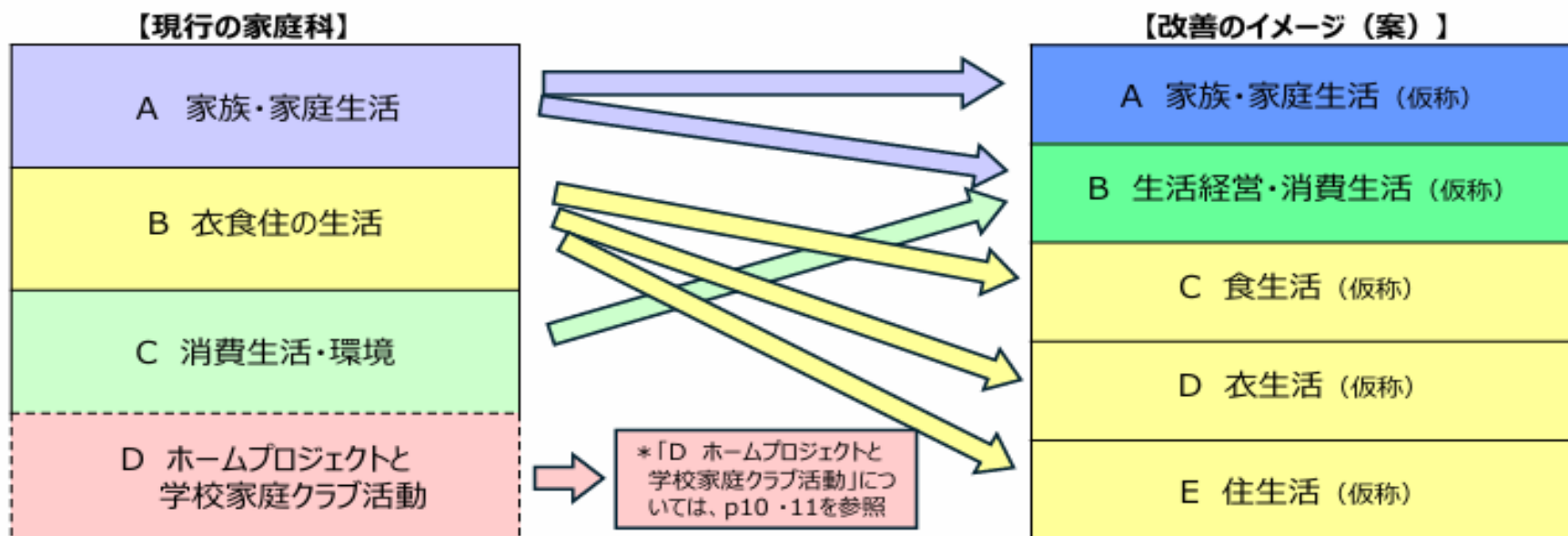
## 小・中・高等学校家庭科における領域の見直しのイメージ図（案）

補足イメージ1

※前回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

現状の課題等を踏まえつつ、家庭科として必要な概念の習得に繋がるよう、現在の小・中・高等学校における系統性の在り方を、各領域の系統性を高める方向で以下のとおり見直してはどうか。

- ①「生活の基盤に関する領域」（生活を営む主体となる「人」に関する指導領域と生活を営む上での「営み方」（マネジメント）に関する指導領域）と「生活を構成する要素に関する領域」（衣食住に関する指導領域）の2つに分類
- ②生活を営む主体となる「人」に関する指導領域は「**家族・家庭生活（仮称）**」、生活を営む上での営み方（マネジメント）に関する指導領域は「**生活経営・消費生活（仮称）**」。なお、「消費者教育（金融経済教育含む）」は、現行の表記の在り方と同様に「生活経営」に併記
- ③「衣食住に関する指導領域」は、従前の順序性や食育の重要性の高まり等も踏まえ、「**食生活（仮称）**」「**衣生活（仮称）**」「**住生活（仮称）**」の順の3領域
- ④家庭科の領域については、「生活の基盤に関する領域」の2領域の後、「生活を構成する要素に関する領域」の3領域



\*小・中・高等学校の領域の正式な名称については、p26・27を参照

\*上記の図は、イメージであり各領域の分量・時数を示すものではない。



## 小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

※ハイライトは第5回WGからの修正等箇所

### 3. 整理の方向性（案）

- 小・中・高等学校の内容については、これまでの議論等も踏まえつつ、以下のとおり小・中・高等学校について系統性・体系性を見直す方向で検討してはどうか。

#### (1) 整理にあたっての基本的考え方（案）

【補足イメージ3：42～53ページ】

- ・ 社会変化への対応等を踏まえた内容の充実を図る際、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る観点から、以下のように教育内容を整理する際の考え方を示すことの適否についてどのように考えるか。

#### <整理の考え方>

#### ① 家庭科の「高次の資質・能力（参考資料4参照）」を育成するために必要な内容となっているか。

→ 調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する必要。このような視点も含め、深い学びを実現するための授業づくりの具体的なイメージ例の提示と併せ、高次の資質・能力に照らして内容項目の精選を図ることも検討

#### ② 小・中・高等学校の各内容の枠組みと対象の系統性・体系性が明確か（校種間や科目間で重複している内容は、児童生徒の発達段階に応じ、適切な学校種や科目に位置付けるよう再整理）

→ 他教科等との内容と重複する内容についても、家庭科の資質・能力を育成する上で真に必要な内容なのかを踏まえて整理することも検討

#### ③ 社会変化への対応や生活文化の継承の観点から真に必要な内容が含まれているか

#### ④ 高等学校の「家庭基礎」「家庭総合」は、「基本的な方向性（案）」を踏まえた内容となっているか

#### (2) 具体的な内容の整理（案）

- 整理にあたっての基本的考え方を踏まえ、以下のとおり各領域の内容について、整理する方向で検討してはどうか。

##### ① 各領域共通の内容項目の整理

- 各領域の内容項目については、新たに5つの領域（家庭総合は6つ）に見直したことを踏まえ、以下の考え方を踏まえて内容項目を整理してはどうか。

- ・ 小・中・高等学校の系統性や、空間軸・時間軸の視点からの学習対象の広がりを含めて内容項目を整理
- ・ 一方、領域固有の特性もあることも配慮して整理

※例えば、小・中学校においては、これまでの自分や現在の自分の視点に立った学習を行う一方で、高等学校においては、生涯発達に伴う様々なライフステージの視点に立った学習を行う等、学校段階による学習上の視点の違いに基づく整理が必要。

##### ② 領域ごとの内容項目の整理 【補足イメージ2：40～41ページ】

#### 「A 家族・家庭と生涯発達」（仮称）

##### ○ 基本的考え方

現行学習指導要領の内容Aのうち、生活を営む主体となる「人」に関する学習内容を整理し、新A領域を構成。

##### ○ 内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行の内容Aの中から生活を営む主体となる「人」に関する内容項目について、次の4項目で整理してはどうか。

その際、小・中・高等学校のいずれにおいても、現行学習指導要領と同様に家庭科の学習の導入となる内容項目を設け、最初に学習することとしてはどうか。

- ・ 自分と家族・家庭・・・自分の成長の自覚、家族と家庭生活との関わり、生涯発達とライフステージの課題など
- ・ 保育（中・高のみ）・・・幼児の心身の発達と生活、子育て支援と福祉など
- ・ 地域との関わりや共生社会・・・地域の人々との協力・関わり方、共に支え合って生きることの意義
- ・ 高齢者と福祉（高校のみ）・・・高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳など

## 小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

※ハイライトは第5回WGからの修正箇所

### 「B 生活の経営と消費生活」(仮称)

#### ○基本的考え方

現行学習指導要領の内容 A のうち、生活を営む上での「営み方」(マネジメント)に関する学習内容を整理し、新 B 領域を構成

#### ○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行の内容 A と内容 C に分かれていた内容について、次の 2 項目で整理してはどうか。

- ・生活設計・・・家庭生活を支える仕事、家族・家庭の機能、生涯を見通した生活課題への対応とリスク管理など
- ・消費と環境・・・消費者の役割、消費者の基本的な権利と責任、家計の構造、生活と身近な環境との関わり、消費生活が環境や社会に及ぼす影響、持続可能な社会へ参画することの意義など

※「生活の経営」は、児童生徒の直接的な学習内容を示すものではなく、あくまで教師が指導するにあたっての考え方として示しているものである。

### 「C 食生活」(仮称)

#### ○基本的考え方

現行学習指導要領の内容 B のうち、生活を形づくる重要な要素である食に関する学習内容のみで整理し、新 C 領域を構成

#### ○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を踏まえ、高等学校では、ライフステージに着目した項目と、食生活の科学的な理解を深める項目として現行内容 B の食生活に関する内容項目を整理してはどうか。

- ・ライフステージに応じた食生活・・・ライフステージの食生活の特徴や課題、食品の特性を生かした調理など
- ・調理実験(家庭総合のみ)・・・調理や加工によるおいしさの変化など

### 「D 衣生活」(仮称)

#### ○基本的考え方

現行学習指導要領の内容 B のうち、生活を形づくる重要な要素である衣に関する学習内容のみで整理し、新 D 領域を構成

#### ○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行内容 B の衣生活に関する内容を、次の 2 項目で整理してはどうか。

- ・衣服の着用、手入れ、活用・・・日常着の快適な着方、日常着の手入れ、被服の機能と着装など
- ・布を用いた製作・・・基本的な縫い方、目的に応じた製作計画、被服の製作計画(家庭総合のみ)など

### 「E 住生活」(仮称)

#### ○基本的考え方

現行学習指導要領の内容 B のうち、生活を形づくる重要な要素である住に関する学習内容のみで整理し、新 E 領域を構成

#### ○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性や、時間軸と空間軸の視点を重視し、現行の内容 B の住生活に関する内容項目を整理してはどうか。

- ・ライフステージに応じた住生活・・・家族の生活に合わせた住まいの整え方、ライフステージごとの住生活の特徴や課題、住まいの選択など
- ・住まいの計画(家庭総合のみ)・・・室内の整え方、住まいの整え方、ライフステージに応じた住生活など

### 「F 総合生活実践」(仮称)

#### ○基本的考え方

「家庭総合」において、A 領域から E 領域を貫く現代的な諸課題に関する問題解決的な学習を行う領域として、新 F 領域を構成

#### ○内容項目の系統性

高等学校の「家庭総合」のみで実施する問題解決的な学習として「総合生活実践」という内容項目で整理してはどうか。



## 小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

### 4. 内容等の在り方

#### (1) 社会変化への対応と生活文化の継承の両立

- 少子高齢化や電子マネーの普及など、**社会変化に伴い、家庭生活も変化**しているため、**児童生徒の生活の実態、発達段階に応じた内容や、家庭科として本質的に重要な内容**等について改めて整理していく必要がある。
- その際、利便性を優先した生活の普及により**失われつつある家庭・地域の生活文化の継承**も念頭においた内容等の在り方を検討する必要がある。
- 以上を踏まえ、**3 (1) <整理の考え方>** ③に示した「**社会変化への対応や生活文化の継承の観点から真に必要な内容**」として、以下の観点を踏まえ、検討していくこととしてはどうか。
  - ① 少子高齢化社会等を踏まえた家族・家庭の在り方
  - ② 生涯を見通した生活設計の在り方
  - ③ デジタル化時代における消費者教育（金融経済教育含む）の在り方
  - ④ 社会変化への対応や生活文化の継承等を踏まえた食生活・衣生活・住生活の内容の在り方
  - ⑤ その他

#### (2) 具体的な改善の方向性

- 3 (1) <整理の考え方> ③に示した「**社会変化への対応や生活文化の継承の観点から真に必要な内容**」として、①～⑤に掲げる学習を充実する方向で検討することとしてはどうか。
  - ① **少子高齢化社会等を踏まえた家族・家庭の在り方**
    - ・社会変化への対応の観点から、地域の高齢者が占める割合が増えている現状等を踏まえ、高齢者との関わりなどで、認知機能、身体機能、言語機能の低下や、状況に応じた関わり方の学習
    - ・生涯にわたって健康な生活を営むために、青年期の段階から、自らの健康状態や生活習慣を整えるための学習
  - ② **生涯を見通した生活設計の在り方**
    - ・生涯にわたり生活設計を立てる上で必要となる、社会保障や奨学金などの社会制度の活用の在り方に関する学習
  - ③ **デジタル化時代における消費者教育（金融経済教育含む）の在り方**
    - ・デジタル化など社会変化に伴い、児童生徒の消費行動にも変化が生じていることなどを踏まえ、キャッシュレス化への対応やリスク管理を踏まえた家計管理の充実など自立した消費者の育成を目指した学習
  - ④ **社会変化への対応や生活文化の継承等を踏まえた食生活・衣生活・住生活の内容の在り方**
    - ・今次の改訂において、日本の伝統的な食文化の継承に向けた内容の充実が図られたが、食をめぐる生活環境は引き続き変化していることを踏まえ、生活文化の継承の観点をより重視する学習
    - ・衣服が環境や社会に与える影響が大きくなっていることを踏まえ、実感を伴いながら、持続可能な衣生活を営む観点や生活文化の継承の観点をより重視する学習
    - ・自然環境の変化や、地域コミュニティの希薄化を踏まえ、より総合的に住まいや住環境を整える観点や生活文化の継承の観点をより重視する学習
  - ⑤ その他

#### (3) 具体的な整理の方向性

- 3 (1) <整理の考え方> ①及び②の観点を踏まえ、別紙のとおり整理することで事項の数を整理することについて、検討していくこととしてはどうか。

### 議題3 系統性・体系性の整理

- ✓ 小中高校の系統性・体系性について、どのように整理するのか

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. **日本家庭科教育学会の動向**
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 日本家庭科教育学会から文科省への提案

文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤久慶様

[提案・質問書] 新学習指導要領における家庭科教育の役割の明確化  
と環境基盤の充実のために 日本家庭科教育学会

令和7年9月25日中央教育審議会教育課程企画特別部会において教育課程の枠組みに関する事項など13回にわたる検討の結果をまとめ、今後のさらなる検討の深化や、各WGでの検討の前提が整理されました。それらの論点整理のなかで、家庭科にかかわって、中学校「技術・家庭科」が「情報・技術科(仮称)」と「家庭科」に分かれる方向性が示され、それを踏まえた小学校、中学校、高等学校を通じての新生家庭科の指導の充実が求められています。これまでも、自立した生活者として社会に参画していく力量を形成し、生活を創造する学びを保障してきた家庭科ですが、教科「家庭」として体系的な学習内容の整理を含む質的・量的な環境整備が急務です。

教育課程部会家庭WG（令和7年10月2日）で示された次の課題について、学会でも、特別研究委員会（新生家庭科を考えるプロジェクト）を立ち上げ、以下のように、これまでの学会の研究成果に基づいて提案を行い、文部科学省、都道府県の教育委員会とともに、協力体制を構築したいと考えております。

（1）小・中・高等学校における目標・内容・方法の体系的な整理に関する課題について

コンテンツベースになりがちな学習指導を、「生活の課題と実践」（小・中学校）およびホームプロジェクト（高等学校）等もあわせて、課題設定の主体が児童・生徒となるよう、カリキュラム構想の重要性とモデル事例を示してまいります。家庭科は、授業時数の確実な担保により地域や家庭との連携・協働を促進するカリキュラム・マネジメントの実質化に貢献できます。調整授業時数制度による対応も、免許外教員や非常勤教員が多い現状では、意見を述べることも難しいのではないかと心配しております。

## **(2) 少子高齢化や社会のDX化に伴う家庭生活の変化に関する課題について**

家庭科の本質に基づいた重点内容の整理, 消費者教育, 金融教育と学習指導要領との整合性, 利便性重視により失われつつある家庭・地域の生活文化の継承の内容について, これまでの研究成果に基づいて, 提案を行いたいと思います。

## **(3) 高等学校家庭科における科目の整理に関する課題について**

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方の中で, 「探究的な学習の時間」と連携した家庭科のホームプロジェクトの学習指導の効果などを示し, 学校全体のカリキュラム・マネジメントの中で, 「家庭総合」履修の意義を方向付ける提案を行いたいと思います。それによって, 高等学校段階における主体的な社会参加の形を実質化し, 多様な興味・関心をもつ生徒の可能性を広げることにつなげたいと考えます。

#### (4) デジタル学習基盤の活用に関する課題について

家庭科の特徴的な学習方法である実践的・体験的な活動において、すでにICTの活用はかなり行われていますが、さらに効果的に使えるように、モデル事例の提案や、プログラムの開発を行い、発信していきたいと思います。

#### (5) 家庭科の指導上の環境整備に関する課題について

各都道府県の教員養成大学と教育委員会の連携によって、教員研修の機会をさらに充実させ、教員養成段階における学習指導を補える環境を作りたいと考えております。

## 新生家庭科を創る(仮) 日本家庭科教育学会編

### 出版趣旨

日本家庭科教育学会は、1958年に設立され、家庭科教育に関する国内唯一の学術研究団体である。これまで家庭科教育の理論構築、教育実践などを通じて、自立した人間形成、日本社会のウェルビーイング向上に大きく貢献してきた。

情報技術の急速な進展、国家間の紛争やグローバルな課題の生起、地球規模の気候変動等を背景として、今我々は、社会・経済システムの転換期に生きている。そしてVUCAの時代と呼ばれる現在、我々の身近な生活も変化を余儀なくされている。生活の要素である「ひと」「もの」「こと」、それらの相互作用の中で生まれる生活価値、生活認識、生活行為・行動(個人・家族・集団)はますます多様化している。このような変化の中で、生活主体を育てる家庭科は、今、そしてこれからどのような教科として存在すべきか、新たな視点で家庭科を再構築する必要がある。

現在、学習指導要領の改訂作業が進む中で、教育課程における教科の枠組み、学び方、カリキュラムにおける各教科のあり様が変わろうとしている。家庭科は、学校で単独の教科となり、小学校、中学校、高等学校と発達段階の特徴を踏まえた内容の体系化を図ることがこれまで以上に求められる。さらに他教科との連携を模索する一方で、ますますその独自性を明確にして家庭科教育の意義を発信していく必要がある。

る。家庭科教育に関するこれまでの研究成果に立脚しつつも、急激に変容し予測困難な現代の暮らしのあり方を直視し、これまで当たり前と捉えていた家庭科の常識をダイナミックに転換することも書名の「新生」の意味に含まれている。

また、社会や生活様態の急激な変化の中で、大人がつくった価値にさらされている子どもたちの実態や課題を捉えて、その現実に向き合うことが求められている。彼らの生活実態、思考の仕方、関心事に、これまでの家庭科の学習内容や学習方法で十分対応できるであろうか。学校教育における一教科としての「家庭科」の中で子どもたちに何を伝え考えさせる必要があるのかを、現実を踏まえて再考する。2001年に全国の小・中・高等学校の子どもたちを対象とした家庭生活調査を実施し、2004年にそれらをまとめて「家庭科で育つ子どもたちの力」(明治図書)を出版した。また、2016年に家庭生活に関わる意識や高等学校家庭科に関する全国調査を高校生、教員、社会人を対象に実施し、2019年に「未来の生活をつくる—家庭科で育む生活リテラシー」(明治図書)を出版した。今回は、2001年調査から四半世紀を経た現在の小・中・高等学校の子どもたちの生活実態に関わる全国調査を行う必要性を認めた。

以上のことから、書籍の内容としては、家庭科教育学および家庭科の指針の明確化、共有のための理念の整理と授業・カリキュラム事例(Ⅰ部)と、子どもたちの生活の現状把握、Ⅰ章のエビデンス確立を目的とした全国調査(Ⅱ部)を考えている。

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 家庭科の背景

- 学習内容は複雑で多様な生活事象である。
- 生活は時代に応じて変化する。
- 文化（地域や国）によって多様である。
- 子供たちの生活経験の少なさ, 関心の低さ
- 生活事象の効率化, 単一化による背景のブラックボックス化
- 学びの過程より結果を重視せざるを得ない現実
- 教育課程における教科時数のアンバランス
- 同時に多くの教育目標（知識・技能, 思考・判断・表現, 態度）を設定する必要性

# 家庭科の背景

学習指導要領は、多様な生活背景をもつ子供に合わせた授業を求めている

教えることは多いのに時間がない

多様な生活背景をもつ子供のどこに焦点を当てるのか

生活背景によっては踏み込めない内容がある

子供たちに基本のキから教えなければ授業にならない

妥当で公平な評価を優先すると授業に自由度がなくなる

学習指導要領で求められることが多い

現, 態度)を設定する必要性

# 家庭科カリキュラムの先行研究

## 鈴木（2019）コンピテンシー・ベースの家庭科カリキュラム

自然発生的な学習効果を期待した教材が用意されている場合が多い

自らの生活課題を意識したリアルな課題設定による問題解決型の学習事例を提案

## 荒井（2020）SDGsと家庭科：カリキュラム・デザイン

授業の題材を学習内容ごとに羅列し、見方・考え方で見通すことができない

教師自身が子どもの興味関心や行動を思い浮かべながら、学習の流れをイメージする「学びの構造図」を作成

## 岡（2021）生活の課題解決能力を育む指導と評価

問いから始まる問題解決的なカリキュラム設計に至っていない

家庭科の概念型カリキュラムの設計に、見方・考え方を概念として組み込むことを提案

自然発生的、経験的な生活概念を読み解き、それを科学的概念にまで高めることで、教科特有の見方・考え方がベースとなった家庭科カリキュラムの構想が期待できる。

# 家庭科の背景～課題→課題解決の考え方

- 学習内容は複雑で多様な生活事象である。
- 授業設計とその指導が
  - 個別的な事実・知識・情報を相互に関連付けたり, 個別のスキルを相互に組み合わせたり, その原理を考えたり, 教科目標につながるような重大な観念や概念に焦点を当てること
  - によって解消される課題があるのではないか?
- 生活事象の効率化, 単一化による背景のノブックボックス化



どのように大量の生活情報, 知識や技能を取りあげ, その思考を刺激する効果的な学びに構成することができるのか。どのように「活動に基づく設計」と「網羅に基づく設計」という双子の過ちを避けることができるのか。

坑, 忠反ノて改是リる必女に

# 本日のお話

1. 家庭科の授業づくりのために
2. 生活者として目指す資質・能力
3. 家政学における生活のとらえ方
4. 家政教育と家庭科教育
5. 学習指導要領改訂に係る情報
6. 日本家庭科教育学会の動向
7. 家庭科カリキュラム構想に求められること
8. 未来志向の生活創造に向けて

# 未来志向の生活創造に向けて

課題山積!

そんな大変な社会を支える人として頑張ろう!

というスローガン  
よりも・・・

## 家庭科学習の意義は

「持続不可能な社会を支え、社会を活性化させる責任を果たしていく力」を育てることにあるのではなく、  
「まだ誰もみたことのない持続可能な社会を思い描き、そこに至るために達成すべき課題を自らの視点で見つけ、協働しながらその生活を目指して能動的に行動できる子どもたち」を育てるところにある。(工藤)

# 生活の多様性を理解する

- 生活を構成する要素は多種多様であるが、家庭科では、生活をそれらの要素の集合体としてではなく、要素の相互作用によって変化する総体として捉える。
- 個々の生活者が周囲の環境に積極的に主体的に関わるかどうかによって、生活の総体は変化する。
- 現代の生活者が直面する課題は、広範囲に頻繁に形を変えて出現し、その要因は複雑な背景をもっており、解決のためには多面的な方策が必要。

•家庭科では、生活者の視点で生活の多様性や現代の生活課題に向き合わせ、自分なりの問い、あるいは共同的な学習によって生まれた本質的な問いをもたせることが期待できる。

•また、生活の要素を内容横断的に扱うことによって、多様で複雑な生活課題の要因を総合的に捉えることが可能。

# 自分も他者も豊かな生活を送るために

家庭科で育成する資質・能力は、科学の知を総合して生活事象を解釈する力、生活技能習得と日常生活実践に対する価値・態度形成、他者との相互作用による自己の生活の創発である。

それは、生活主体としての成長、発達に資するものであり、主体性、積極性、創造性や行動、実践力によって支えられ、多様で複雑な情報を自分なりの文脈で整理し、意思決定できる力にもつながる。